

ねじりはちまき

4月 卯月、清明、穀雨の月になりました。

4月5日清明。6日春の全国交通安全運動(15日まで)です。

8日花まつり。17日土用。20日穀雨。29日昭和の日となっております。

菜種梅雨(なたねづゆ)とは、もともと風の呼び名であり3月~4月に吹く風を言います。菜の花が咲く頃に雨が降り続くことがあり、その長雨のことを言うようになりました。菜の花は暖地では2月下旬には咲き始め、3月には山岳部を除く本州中部以西、4月には東北地方も山岳地方も開花します。

この頃になると花見などで会食が多くなります。どうぞお体だけは大切になさって下さい。お祈りしております。

幸田常一

<会社近況>

先月の大きな地震は本当に怖かったですね。被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。毎年大きく揺れると家の被災箇所を直しても直しきれません。今後も余震に注意しながら、もう揺れないことを願うばかりです。

ただいま、本宮市内の地震による破損や故障の復旧作業をしております。

<5月連休のお知らせ>

5月1日(日)~5月5日(木)までお休みさせていただきます。

ご不便をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。

今回は石（岩）にまつわる話を収集し、綴ってみたい。石といえば、身近なものとしてどんなものを思い浮かべるだろうか。例えば、敷石、庭石、墓石、記念碑、階段、建築用石などだろうか。また、城下町であったところでは、城跡に堅固な石垣が見られる。なぜ石について関心を持ったかという、人類の歴史で、その大部分が石器時代といわれる時代であり、約200万年前から10万年前（現生人類であるホモサピエンスは25万年前誕生）まで続いたという。これは利器の分類からみた歴史区分で、石器時代の後には、青銅器・鉄器の時代へと移行する。石器時代も打製石器の時代を旧石器時代（後期になると、ナイフ型石器も・土器も併用へ）とよび、磨製石器の時代を新石器時代という。この区分を日本の歴史に当てはめると、後期旧石器時代（約3.5万年前～1.2万年前）に日本列島に人類が住むようになったとみられる（遺跡が発見されている）。縄文時代に入ると、既に磨製石器になっていたということだ。また、その後日本では、弥生時代に入るとまだ石器も残るが、青銅器と鉄器が同時に大陸からもたらされて移行していったという。

石は石器時代に主に道具として用いられたのであるが、それ以外にも用いられたことが遺跡から窺える。例えば、秋田県鹿角市に「大湯環状列石」がある。この度縄文遺跡の一つとして世界遺産に指定されている。縄文時代後期（4000年前）の遺跡である。国内最大規模のストーンサークルである。環状＝サークルに石が配置されているのである。最大径44mと最大径52mの環状列石が二つ130mの間隔をおいて隣接している。そこには、日時計組石がある。環状の中心部から日時計中心部を見た方向が冬至の日に太陽が沈む方向となっている。列石がなぜ環状(円形)なのかは分からない。ところで、この環状列石は、何に使われたのか。これまでの研究では、個々の配石墓の集団墓（共同墓地）の可能性が高いという。それと周辺には、掘立柱建物群の遺跡があり、葬送儀礼や自然に対する畏敬の念を表す祭祀施設であったのではないかとされている。この共同墓地は独立した形になっているが、これ以前は環状集落の中心部に墓域が設けられていたのがこのように形態を変えていったものらしい。思うに、縄文と言われる時代にあっても、死者の葬送は大事にされていたのだ。それは生まれ変わりを信じていたのか、またはそれを願ったことではなかっただろうか。そして、この共同墓地の列石は、現在の墓石を思わせるものでもある。石は堅固であることから、いのち（魂）の永続性を願うには相応しいと思ったのであろうか。小生はそうだと思いたい。石は永遠のパワーを表わすのだ。

次に外国のストーンサークルの話に移ろう。イギリスのことである。イギリスのストーンサークルには巨石を使っているものがある。これほどの巨石を遠方から苦勞して運んでまで、どうして造ったのだろうかという疑問が湧く。この国にはストーンサークルの遺跡が1000箇所以上あるが、特に有名なのがストーンヘンジ（世界遺産）である。紀元前2500年の頃造られたらしい（その前からあった規模の小さいものを作り直したらしい）。そのストーンサークルに使われている個々の石が巨石なのである。高さが6～7m（50t）の門の組石・5組を中心に、直径100mの円形に高さ4～5mの30個の立石が配置されている。しかも安定して倒れないように措置(高度な技術)がなされているという。それともう一つ。夏至の日にヒルストーンと呼ばれる玄武岩と中心にある祭壇石を結ぶ直線上に太陽が昇ることから、冬至の日に太陽の夕日がサークルの中心を貫いて差し込むようにしてあることから、天文学の高い知識があったことを伺わせる。そういうことから、このストーンサークルが作られた目的は、太陽崇拝の祭祀場とする説、或は古代の天文台とする説が唱えられた。しかし、最近このストーンヘンジは古代ブリトン人が先祖の魂と繋がる儀式の会場であったらしいという説が有力になった。なぜかという、環状列石の周辺の多数の穴から人骨が発見されたのである。葬送儀礼の場であるとすれば、それは日本の

ストーンサークルと共通するものと言える。人間として死者を弔う思いには共通するものがあり、この時代の表現としてこういう形をとったのだと言えよう。

ところで、なぜこの巨石でなければならなかったのだろうか。このストーンサークルに相応しい石として選ばれたのは、サルセン石といわれる。即ちできるだけ大きく、頑丈な、しかも見栄え(表面の石英が太陽に輝く)のする石である。そのサルセン石が採れるのは、25~30 km離れたところである。そこから運んだのである。ではどうやって運んだのか。どうも、石をそりに乗せ、コロ屋レールの上を滑らせた可能性が高いという。大変な人力を要したことだろう。その所用の人質体制が取れなければやれることではない。なぜそれまでして、巨石を使いたかったのか。そこに込められた古代ブリトン人の願いとは何か。当時のブリトン人の置かれた状況としては、太陽の日射が弱く、凶作が続いたという。これからすると、太陽日射の復活を願う祭礼の場として作られたとも考えられるがどうか。それと、ストーンサークルがなぜ円形を採ったのか知りたいと思ったのだが。生まれ変わりも、太陽の周期も循環して元に戻るという意味合いで円形としたのだろうか。

次にエジプトのピラミッドの話に移ろう。ピラミッドはエジプトの王の葬送礼儀が執り行われた「お墓」であったことは学者の意見が一致しているところである。その中で代表的なものがクフ王の大ピラミッドである。このピラミッドは生前に造らせたもので、23年間かけて紀元前2500年頃完成した。このピラミッドの規模は、底辺が一辺約230mの正方形で、四角垂の形状をしており、高さが約146mある。四つの角は完全な直角となっており、それぞれの三角面は正確に東西南北に直面している(正確な天文観測技術を持っていた)。四角垂に建設する技術的に高度なものがあったことが伺える。では、大ピラミッド建設にはどの位の石が使われたのだろうか。何と2.5~7tの石灰石の切り石が230万個使われているという。驚くべき数である。幸いにして石切り場はちかくで、300m位しか離れていなかったようだ。それにしても、23年の建設期間で大変な数の労働者を必要としたことだろう。労働者と言ったが、建設に従事したのは奴隷ではなく、それ相当の待遇をされた労働者であったことが判明している。石を切り出す作業、石を運ぶ作業、石を削って据え付ける作業、それに加え、上部に運ぶための傾斜路建設の作業、道具とソリを作る作業、水を運ぶ作業、労働者の食事を作る作業など合わせると大変な数になることがわかる。よくも出来たものだと思う。ソリや水の話が出たが、これは石を運ぶためのものだ。運ぶ時、砂を濡らすことで石を積んだソリを移動しやすくするという工夫をしたようだ。いつも疑問に思うのだが、ピラミッドはなぜ四角垂なのだろうか。それと高さが100mを超え、非常に高い。日本の古墳とは大分異なる。王なる者、死してなお東西南北を視界に収め、天に昇らんとする姿か。永世を願ってのことだろうか。そのために天(神なるもの)と繋がることを願ったのか。それはまた、王なる者のみが許される、権威を示すものとしたかったのであろうか。想像はどんどん膨らむがこの辺で止めておこう。

最後に、ストーンサークルも、ピラミッドも、お城の石垣(今回かけなかったが)も、石の芸術作品だということを申し上げたい。石の彫刻ではないが、石を組み合わせることによって、それぞれの願いや思いを表現しているのは間違いない。1000年単位で遡って考えても、人間の思い(心)は現代人と変わることはないんだらうと考えるが、どうでしょうか。今回はこれで終わりとする。

チャレンジ 残雪の 男鹿岳、野伏ヶ岳、笈ヶ岳

【山の概要】(百は日本百名山、◎は日本二百名山、○は日本三百名山)

- 1 男鹿岳 (○福島県側ではおがだけ、栃木県側ではおじかだけ 1777m、栃木県と福島県境)・・・ 登山口までたどり着けず
- 2 野伏ヶ岳 (○のぶせがたけ 1674m、岐阜県郡上市)・・・ 登頂
- 3 笈ヶ岳 (◎おいずるがたけ 1841m、石川・岐阜・富山 3 県境)・・・ 登山口周辺調査

男鹿岳

この山は 2019 (令和元) 年 5 月初旬に登ろうとして、果たせていない因縁の山。3 年前は林道から残雪の西尾根を登り、若者の先行グループに続いての登頂を試みたが、途中でグループと離れ (ついていけず)、藪漕ぎのルート探索に失敗し林道まで引き返した。その後林道先の県境地点の登山口まで行ったが、時間切れで引き返した山。この時も 10 時間歩いた。

3 月 25 日 (金)

朝 5 時自宅発。前回と同じ東北道白河 IC から甲子道路を經由して南会津町の栗生沢 (くりゅうざわ) 集落を目指す。山間部の甲子道路の周囲は残雪で、甲子峠は凍っているところがありゆっくり慎重に進む。



写真①

7 時、集落を通り抜けると除雪が終わり、除雪車で押し込まれた 1m を越える雪の手前左端に車が 2 台置ける駐車スペースがあった。神戸ナンバーのブルーの車が止まっていた (写真①)。



写真②

7:20 準備しツボ足で出発する。滝沢橋の積雪も 30 cm 位ある。橋を越えたところの「通行止」の標識の脇を抜ける。地面が見えているところはほとんどなく、ガイドブックでは車で行くことの出来るとされている釜沢橋までで 2 時間もかかってしまった。林道にはもやがが発生し (写真②)、雑木が茂り通



写真③

行の邪魔をする(写真③)。釜沢橋からはスノーシューを装着する。

12時半まで歩き右側の急斜面に登る踏み跡を見つける。登山口まであと30分ぐらいと思ったが、そこから山頂往復5時間をみると車まで戻るのが22時か23時になってしまう。ヘッドランプはあるがここで登山をあきらめる。今回は県境の登山口までも達することができなかった。

雪の上にシートを敷きおにぎりを食べてゆっくりする。林道を引き返し17:30駐車場に着く。10時間の雪上林道歩きを終える。神戸の車はまだそこにあった。自分より早く出発し、暗くなっても登頂を果たす覚悟

だろう。無理をしなければよいが。

足、特にふくらはぎがパンパンで7時間余のスノーシュー歩行がこたえた。

次回は少なくとも林道の雪がほとんどなくなってから再度挑戦したい。やはり4~5月の連休の頃か。雪が少なくなると上部の藪漕ぎが大変だ。男鹿岳は日本三百名山に選ばれているが、地元でも登る人が少なく地味な山で、自分は2度とも林道歩きで敗退したことになる。残雪期の登山はその年の降雪量、雪解け具合、当日の天候、自分の体調などによって難易度は大きく変わる。うまくかみ合えば難なく登頂を果たすことができる。基本になるのは自分の体調だ。

野伏ヶ岳

同じ日本三百名山で夏道がない山でも人気のある山とそうでない山がある。野伏ヶ岳は登山口までのアクセスが容易で山頂からの展望が良いことで人気のある山だ。ネットの検索でも男鹿岳と比べると山行記事の投稿者が圧倒的に多い。

3月29日(火)

まだ少しふくらはぎの痛みが残っているが、翌日の岐阜県の降水確率が低い予報なので野伏ヶ岳に行くことにして8:30自宅を出発する。以前に注文していたガーミンのGPSを28日に入手したので、使い方はこれからだが持つことにする。

磐越道、北陸道、東海北陸道を経由し高鷲(たかす)ICを15時過ぎに出る。

登山口は岐阜県郡上市白鳥町石徹白(いとしろ)地区の白山中居神社(はくさんちゅうきょじんじゃ)の駐車場。



写真④

予約していた民宿に行く前に神社に寄る(写真④)。ここには2年前の4月に大日岳(◎1709m)や鷲ヶ岳(○1672m)に登った時にも寄っている。神社の下の林道まで行ってみたら、ちょうど下山してきた熟年のペアの車とすれ違ったので車を止めて

ルート状況を聞いてみた。「雪

がざけて(雪が解けてシャーベット状の様子)歩きづらかったこと、時期的に少し遅かったかな」などと話していた。神社の先の石徹白川にかかる橋の手前に駐車したとのこと。

夕食は豪華で野菜など具沢山の豚しゃぶがメインで、食べきれなくて残してしまった。普段夜には食べないご飯も頂いた。薬味として出された柚子なんばん(青辛子と柚子を味噌で和えたもの)がおいしかったので5個お土産に買った。

早めに就寝。

3月30日(水)

5時起床、6時前から食事。納豆と生卵に柚子なんばんを少し加えたらおいしくご飯が進んだ。6時半過ぎ民宿を出発、空はどんより曇っていた。

神社の駐車場には3台停まっていた。5~6人くらいは山に入っていると思いい少し安心する。橋の手前に車を置く。少しでも山に近い方が良い。

7時出発。橋を渡るとすぐに林道は雪道になるがツボ足で行く。林道には無数に足跡があり、道の部分でないところにも踏み跡があり悩ましい(写真⑤)。男鹿岳と異なり残雪期限定の人気の山とわかる。



写真⑤

1時間20分ほど歩いたら、アイゼンを着けた熟年男性二人連れが杉林の中を林道を短縮して登ってきた。後についていったら尾根筋に出て、休憩中に話したら地元の人で何回も登っている人たちだった。天気が良くなり青空が広がってきて樹林帯の向こうの谷越にそびえる山の



写真⑥



写真⑦

説明を受ける（写真⑥）。和田山牧場跡までのルートや牧場を横断した後の山頂に繋がるダイレクト尾根の取り付きなどを教えてもらった。初めての山の現地でのアドバイスはありがたい。

自分もアイゼンを装着する。彼らは速く、姿が見えなくなっても踏み跡がはっきりしているので忠実に跡をたどる。牧場跡からの野伏ヶ岳がかっこいい（写真⑦）。

ダイレクト尾根取り付き手前でちょっとの間二人の姿が見えたので安心する。休憩し汗をかいた長袖のアンダーシャツを脱ぐ。スノーシューの男性が追いついていった。登り急斜面でのスノーシューの扱いは難しく、

男性は苦闘していた。10時前ダイレクト尾根に出ると広葉樹の疎林の間を縫って踏み跡が続いている。途中でスノーシューが雪に刺して置いてあった。緩やかだった傾斜が次第に急斜面となり、時に膝くらいまでもぐる。

山頂近くで数グループの若者たちが下山してきた。山頂直下は藪が出て雪の断裂ができているところがあり、不気味。藪を越えたところで先行の熟年二人組が下山してきた。山頂はもうすぐですよと教えてくれた。11:35 山頂着。山頂標識はなく、こんもりと丸い雪の山頂には男性が一人いた。お疲れさまと言ってくれた。

4時間半の道のりだった。不安を覚えていたほどではなく、先日の男鹿岳の林道歩きからすれば山らしい山で気分的には楽勝だった。

青空の下、遮るもののない360度の展望は素晴らしかった。北には文字通り真っ白な白山(百2702m)が盟主としてまだら模様の多くの山々を従えていた(写真⑧)。右手ずっと奥には北アルプスの山々が白く続き、雲のように見える(写真⑨)。さらに右手少し離れて乗鞍岳(百3026m)の連山、さらに少し離れて御嶽山(百3067m)が大きい。西北方面には2年前の9月に登った経ヶ岳(◎1625m)、西南には少し黒くなった荒島岳(百1524m)。



写真⑧



写真⑨

男性と話したら茨城の人で言葉なまりが似ていて親しみがわく。49歳とのこと。前日に笈ヶ岳を15時間かけて登ったとのこと。自分には無理だと思った。20歳の違いは大きい。また先週には男鹿岳を登ったとのこと。彼は携帯のYAMAPを利用し福島・栃木県境の登山口ではなく手前の西の尾根から登ったとのこと。話は尽きないが彼は先に下山した。明日は仕事とのこと。

一人になり改めて景色を見る。なんといっても白山方面が素晴らしい。パンとソーセージをかじりながら1時間以上も長居した。下りてしまうのがもったいないが12:50下山を始める。スキーで登ってくるグループがいた。急な登りで苦労していたが、下山は自分よりも早いだらう。尾根から左側の牧場跡地に下りる場所を探しながら下ったが、見過ごしてしまい、踏み跡が次第に少なくなっていく。杉林に入り不安になった頃林道に出ることができた。ガイドブックにも

「杉林の中は、思い込みだけで下るととんでもない方向に行くことがあるので注意したい。」と書いてあった。GPS や YAMAP の操作に早くなれる必要性を痛感する。15:20 車着。下り 3 時間半。1 時間以上の昼食休憩をはさみ 8 時間半の野伏ヶ岳山行を無事終える。

宿のご主人に勧められた天然温泉満天の湯には寄らずに、15:45、笈ヶ岳登山口確認のため白山一里野温泉に向かう。R158 美濃街道（九頭竜湖）や R157 勝山街道（手取湖）などを経由し、一里野温泉手前の道の駅瀬女（せな）に着いたのは 20 時になってしまった。翌日は雨の予報で登山はしないので久しぶりに車中泊することにした。道の駅瀬女はきれいでバスの発着所にもなっていた。マットレスやシュラフ、毛布などを準備し途中で求めたハイボールを飲んで就寝。夜半霧雨になっていたが寒くはない。

笈ヶ岳

この山は深田久弥が未踏を理由に「日本百名山」に選ばなかったという名山。今回は登山口周辺の調査。

3 月 31 日（木）

朝目覚めたら小雨が降っていた。生暖かった。お湯を沸かす気にはならずにパンとバナナとお菓子で朝食とする。7 時、道の駅瀬女から 7～8 km 先の白山一里野温泉スキー場を目指す。道路脇の温度計では 9 度との表示、暖かい。

スキーシーズンを終えた雨の日に外を歩いている人はいない。車で行ったり来たりして調べたが、まだ雪があり白山スーパー林道も通行止めとなっており、ガイドブック説明とは季節が異なり登山口近くまでは行けなかった。YAMAP には雪のあるうちは北竜会館裏角の杉林を下りると中宮発電所のところに行けると書いてある。

野伏ヶ岳山頂で話した茨城の彼のように、今の時期に笈ヶ岳に登るには往復 15 時間かからないと登頂できないことを実感する。笈ヶ岳も短い期間の間にタイムリーな時期を狙いすまして登るしかない。登山適期は限られている、さらに調べる必要があるようだ。

3 時間ほどウロウロして 10:30 帰宅の途に就く。北陸道金沢西 IC から入り途中新潟県の米山 SA でカツカレーを食べ、自宅には 17 時半過ぎ着。往復 1180 km、2 泊 3 日の山行を無事終える。

心地の良い疲労感、風呂上がりのビールは最高ですね。

令和 4 年 4 月 NO106 アンチ・エイジング 山旅遊人